



Title	IDUN20号 ー北欧研究ー 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2013, 20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95523
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN 20 号 — 北欧研究 — 刊行にあたって

昨年の春に大阪大学外国語学部デンマーク語・スウェーデン語専攻の第一期生の学生たちを社会に送り出しました。旧大阪外国語大学の学生もこの春に全員卒業してゆきます。外国語学部としてのデンマーク語・スウェーデン語専攻もだんだん定着してきました。

その一方で、私たちデンマーク語・スウェーデン語専任スタッフが所属していた世界言語研究センターが 2011 年 3 月をもって改組となり、言語文化研究科言語社会専攻に統合され、新たに形成されたヨーロッパ講座Ⅱに所属することとなりました。このヨーロッパ講座Ⅱというのはデンマーク語とスウェーデン語の教員で構成され、今まで以上に堅固で密な教育・研究協力体制がとれるのではないかと期待しております。

そのような中、IDUN 19 号に引き続き、20 号を刊行することになりました。今回の IDUN は今までと少し趣が変わっています。それはデンマーク語・スウェーデン語研究室が科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究に「北欧諸国における情報の収集・管理・公開に関する多角的研究」という題目で申請したところ 2011～2012 年度に採択（課題番号：23651254）されたことによります。そのようなわけで、その成果報告をここで発表し記録として残しておくことが必要であると考えたからです。ここで報告書を刊行する理由はそれだけにとどまりません。各報告書にはデンマーク、スウェーデンの語学、文学、社会、歴史に関して、有益なしかもその多くは無料で利用できるインターネットのサイトについての説明、そしてそのアドレスも記載されていますので、研究者、学生はもちろん北欧に関心を持っている一般の人々にも活用してもらえ情報が満載されていると自負しています。ただ、インターネット上のサイト、報告書の内容が現時点での情報を反映したものであるということをお断りしておきたいと思います。

そのような経緯で、今回の IDUN の構成は、IDUN 本来の論文編を第 1 部に、第 2 部として科研の報告書を配置しました。本科研では 2011 年 8 月 2 日にはデンマークの国語審議会・研究所から Anne Kjærgaard 研究員にお越しいただき、”Historien om Dansk Sprognævn” というタイトルでデンマーク語国語審議会・研究所の歴史について、および ”Sådan skriver vi – eller gør vi? – sprogkampagner i offentlige institutioner –” というタイトルでデンマークの公共機関における言語政策の在り方についてお話いただきました。

さらに、同年 11 月 29 日にはスウェーデンの Göteborg 大学スウェーデン語学科から Bo Ralph 教授と Anna Helga Hannesdóttir 准教授をお招きし、それぞ

れ ”Svenska Akademiens språkliga arbete”, ”ISLEX – en isländsk-skandinavisk ordbok på nätet” のタイトルで講演をしていただきました。いずれの講演も興味深く、とりわけ講演の数日前に完成したばかりのネット上の辞書 ISLEX 作成事業の中核を担っておられた Hannesdóttir 准教授から直接紹介をいただき、私たちは最新の情報をいち早く知る幸運にも恵まれました。

Ralph 教授と Hannesdóttir 准教授の講演内容を本誌に寄稿していただけることになり、誠に光栄に思っています。その時の講演の要旨に留まらず、立派な論文にしてとりまとめてくださり、感謝に堪えません。デンマーク語の講演は Kjærgaard 研究員ご本人のご都合により、寄稿していただくには至りませんでした。代わりに会場で積極的にアテンドしてくれた本学・非常勤講師の大辺理恵さんが講演の要旨をまとめ、さらに彼女自身のコメントを加えた論考として報告書に参与してもらうことができました。

ちなみに、Bo Ralph 教授はスウェーデン・アカデミーのメンバーであり、Nobel 文学賞の選考委員でもあります。その関係で翌 30 日には豊中キャンパスで一般学生向けに特別講義 ”The Work on the Nobel Prize in Literature” を行っていただき、聴講者は 160 名にも上り、アレンジした私たちも感動するほど好評でした。

翌年はまた本科研で 2012 年 10 月 17 日にストックホルムにある Ersta Sköndal 大学の Emilia Forssell 講師を迎えて、”ELDERLY IN SWEDEN Perspectives on Social Care” というタイトルの講演をしていただき、スウェーデンにおける社会福祉の基礎的な知識を学生に教授していただきました。

2013 年 1 月 8 日には関西学院大学よりキルケゴール研究の第一人者である平林孝裕教授にお越しいただき、「キルケゴール新版全集の特徴と意義について：新しい研究の可能性をめざして」と題する講演ならびに新版全集の電子版デモンストレーションをしていただき、キルケゴール生誕 200 年を飾るに相応しい最新の情報をご提供いただきました。

さらに本号印刷中である 3 月半ばから後半にかけて、本科研研究活動の締め括りとして、Lund 大学から Stefan Eklöf Amirell 研究員が 19 日に「現代スウェーデン歴史学界の抱える問題点とその国際化について」、そして 27 日は同大学コミュニケーション・メディア学部准教授 Marie Cronqvist 氏が「近現代のスウェーデンに果たしたメディアの歴史的役割について」というタイトルで講演して下さる予定になっています。

こうして言語、社会、文学、歴史から多数の著名な研究者をお招きし刺激かつ貴重な講演をいただいたことはこの科研で得られた最大の成果でした。また、デンマーク語の外国人特任教員 Thomas Breck Pedersen 先生も本科研の出張で米国にて開催された SASS (The Society for the Advancement of Scandinavian Study) の会

議に参加し、国際会議における北欧の諸情報について本誌で報告をしております。

このように本科研に携わったデンマーク語・スウェーデン語研究室全員および海外から招聘した研究者たちが皆、テーマに沿った報告書をここにまとめ上げ、公にできることを嬉しく思っています。

またこの2年間には科研の関連とは別に、デンマーク・スウェーデンの研究者と交流する機会に2回恵まれました。初回は2011年8月2日デンマークの国語審議会・研究所の Kjærgaard 研究員に科研関連でご講演いただいたのと同時期に、デンマークのロスキレ大学より Lars Heltoft 教授, Eva Skafte Jensen 准教授, コペンハーゲン大学より Annelise Sivertsen 研究員を「特別交流研究支援制度」を利用して招聘し, 8月1日はデンマーク語の副詞の心態詞的用法に関するセミナーを, そして翌2日は Lars Heltoft 教授, Eva Skafte Jensen 准教授よりデンマーク語文学作品の言語学的解釈に関する講演会を開催することができました。同セミナーおよび講演会には上記3名のデンマーク人招聘研究者の他に, 東海大学から福井信子教授にもセミナーおよび講演会にご参加いただいたこと, またデンマーク語・スウェーデン語専攻の院生・学部生および一般から約15名の参加があり, 大変刺激的かつ有意義な時間を持つことができました。

2回目は2012年11月15日にスウェーデンを代表する推理小説作家 Arne Dahl 氏をお迎えしました。これはスウェーデン語の外国人特任教員である Ulf Larsson 先生のイニシアチブで Svenska institutet から助成金を得て実現しました。Arne Dahl 氏の作品は, 日本語を含む20カ国語を超える言語に翻訳され, ドラマや映画化もされています。今回は "Den svenska kriminalromanen och sitt författarskap" に沿って講演していただきました。氏の作品は本学の講読の授業でも使用されているためか, フロアからもスウェーデン語で積極的な質問が出されました。

次に研究室内の外国人特任教員の異動についてご報告いたします。まずデンマーク語研究室では2011年3月に Liva Hyttel-Sørensen 先生が2年間の任期を終え離任されました。在職中はパートナーの Jakob さんとずっと日本での生活を共に過ごされ, たいへん明朗活発なご性格で学生たちからも強い信頼を得ておられました。その Liva 先生の後任に2011年4月より Thomas Breck Pedersen 先生をお迎えしました。Thomas 先生はコペンハーゲン大学で「第二言語としてのデンマーク語教育」課程を修めた後, コペンハーゲン市内の外国人のための伝統あるデンマーク語学校にてデンマーク語を2年間教育されてきた経歴をお持ちです。

スウェーデン語研究室では2012年に Einar Korpus 先生が2年間の滞在の後に離任されました。どこか飄々としたお人柄で, 日本が大好きな方でした。その Einar 先生の後任に2012年4月より Örebro 大学の講師を務めていらした Ulf Larsson 先生が赴任されました。専門は食べ物に関するスウェーデン語研究で, 言語だけで

はなく実際に食べ物を賞味されることも大好きで、日本料理にも果敢に挑戦され、そのたびにどれも美味いと賞賛されます。授業も慎重に準備され、私たちも大いに期待しているところです。

最後に、今回の IDUN 20 号刊行にあたって、言語文化研究科より平成 24 年度研究推進経費による研究成果刊行助成を受けたことをデンマーク語・スウェーデン語研究室一同深く感謝いたします。

2013 年 3 月 15 日

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻
ヨーロッパⅡ講座
デンマーク語・スウェーデン語研究室

デンマーク語専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/danish/top.html>

スウェーデン専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/swedish/startside.html>